



## 今月の保健行事

8/21(水) 身体計測

## 流行している感染症

- 7月初旬よりマイコプラズマ感染症の子が4.5歳児に1人/週程度いました。
- 手足口病の子が数人いました。(3.4.5歳児)
- 身体に赤い発疹が出る園児が複数いました。要因は様々で、突発性発疹、溶連菌、手足口病などが主です。手足口病は数週間後に手足の爪がはがれる事例もありました。いずれも自然に治癒していきます。
- 発疹は発熱を伴わないものもあります。(とびひ、ヘルペス、蕁麻疹など)いずれにせよ、治りづらいものは受診しましょう。
- 結膜炎の園児も数人いました。
- コロナが流行してきています。家族に感染者が出ても、園児に発熱などの症状がなければ登園できます。

園児がコロナに感染したときは保育園にご連絡ください。

主治医の指示のもと療養して下さい。コロナ感染症は登園時に意見書が必要です。

## とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうごができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



### 主な症状

- 皮膚に小指のつめくらいの水ぼうごができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

### 家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう



治りづらいとびひは皮膚科、小児科受診しましょう！



夏真っ盛りでも鼻水の出ている園児は多くいます。

## 鼻水・鼻づまりには…

1

鼻水が出る



元気で食欲もあり、ほかの症状が見当たらない場合は、出た鼻水はこまめにやさしくふきとりましょう。健康観察をしましょう。

2

鼻水が長く続く



耳鼻科または小児科を受診しましょう。水のような鼻水は、かぜ、アレルギー性鼻炎など、粘りけのある鼻水は、蓄膿症(副鼻腔炎)の可能性がります。

3

鼻水で鼻の下が荒れ、赤くなっている



ワセリンやクリームを塗ってケアしましょう。



4

鼻づまり



鼻の粘膜がはれるために起こります。**鼻音ははっきりしないこともあります。**口呼吸が多いと感じる場合は、専門医を受診をおすすめします。